

報 告 書

2015年 10月 6 日

望月厚司様

議員名 佐藤成子

下記のとおり、政務活動費による視察を実施したので、ご報告します。

1 日 時	2015年9月29日（火）15:00～17:00	
2 視 察 先	(1) 都 市 名 視 察 先 施 設 等	マニフェスト研究所 第4回定例会@兵庫県議会 兵庫県議会会議室
	(2) 対 応 者	北川正恭 早稲田大学名誉教授 兵庫県議会事務局 早大マニフェスト研究所議会改革調査部会
3 目 的	テーマが「政務活動費と議会活動のあり方」ということで、現在兵庫県議会議員がその使途（政務活動費）を問われているという生々しい話も事務局から伺えるということで参加した。	
4 内 容	<p>(調査事項・調査結果を具体的に)</p> <p>やじ問題、号泣議員を発端にした地方議会の一連の騒動から1年以上が経った。政務活動費のあり方に注目が集まり続ける中、兵庫県ではどのような変化があったのか。議会事務局の現状と課題などが話された。</p> <p>地方創生時代における、政務活動費のあり方</p> <p>地方議会としての役割は何か？地方議員の使命は何か？二元代表制の一方の責任者としての地方議会の充実が重要だ。地方分権時代をリードし、真の地方自治擁立のための責務は大きい。重なる地方議会の失態は許せないことだが、むしろ、しっかりとその責務を果たしている議会には、政務の活動費のあり方を検討してもいいのではないかと思う。市民は見ている。説明責任をしっかりと果せる政務活動でなければならないのは言うまでもないことだ。</p> <p>政務活動費の対応と課題について</p> <p>議会事務局でのチェック体制はどうだったのか？領収書の添付はどうされていたのか？これまでの規定に則り行われていたとの事だ。ある意味チェックの限界もあるのかもしれない？チェック体制が強化されたのは言うまでもない。公開されている議会とそうでない議会がある。領収書も5万円以上添付などの規定のあるところもある。</p>	

	<p>兵庫県議会議員の話し</p> <p>政務活動費の不適正使用の発覚以来、県民の信頼を失いました。信頼されない議会では、議員が政策を訴えても県民の支持を得られないことを身にしみて感じている。氷山の一角の出来事であっても、議会への信頼低下をいかに取り戻すかだ。</p>
<p>5 成果・市政への反映等</p>	<p>なぜ議会事務局で、このことを早く指摘できなかったのか？とっていた。膨大な資料の中に隠れていたのか？内部のチェック体制が甘かったのではないかなど疑問も残るが、新体制で課題解決に向け大きく進んだとの説明だったので納得？した。なぜこのような議員が生まれるのか？個人の意識の問題だが、この一つの出来事ですべての地方議員の評価に繋がるのは困ったものだ。静岡市の場合公開されている。領収書の添付も徹底している。細かい事を言えば切りがないけれども、社会の変化と共に、市民の目がより厳しくなっていることを自覚し、政務活動をすべきだ。研修会と懇親会なども検討の余地があるのかもしれないが、...</p>

(注)

- 1 この別紙は、視察先ごとに作成すること。
- 2 連名により作成することも可能。
- 3 この様式により難しい場合は、別の様式によることができる。